

小中高の系統的指導法開発実践講座（家庭）

1 はじめに

(1)家庭科教育における小中高の系統的指導法の必要性

家庭科では、子どもの発達に応じて、自立して生活する個人としての必要な力や家庭を形成する家族として必要とされる力をはぐくむことをめざしている。具体的には、衣食住などの生活に必要な技術（技能）を習得して生活者として自立する力、生活の様々な事象の根底にある原理・原則を知って衣食住などの生活を理解する力、衣食住などに関する生活の知恵や文化を伝承し創造する力、家族を中心とした人間関係をよりよく調整し協力して生活する力、生活に関わる諸問題をよりよく処理して解決していく力などである。こうした力をはぐくむためには、小学校・中学校・高等学校へと系統的・体系的に、繰り返し学習していく必要がある。そして小・中・高等学校において最終目標とされることは、生活に必要な知識と技術（技能）を習得させ、生活を工夫し創造する能力であり、実践的な態度である。これらを小学校では家族の一員としての立場、中学校では自立した生活者としての立場、高等学校では生活を創造する立場として実践する力を身に付けさせることが必要である。

各校種の教科目標

小学校 家庭

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活への関心を高めるとともに日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付け、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。



中学校 技術・家庭

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

家庭分野

実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。



高等学校 普通教科「家庭」

人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

(2) 小中高の系統的指導法の具体題材

基礎・基本の確実な定着を図るために、小学校の学習が中学校さらに高等学校でどのように関連づけて指導が行われているか、又は有効に活用されているかを振り返ることは重要なことである。今回の系統的指導法の開発では、住生活に関する内容に視点をあてて研究を進めることにした。

住生活に関する内容は、小中高で共通に学習する内容ではあるが、その取り扱い方については校種ごとに違いがある。そこで、今回は、系統表を作成してその違いを分かりやすく示すこととした。また、中学校では小学校の、高等学校では中学校の学習をより深める部分とその校種で新しく加わる部分が明確である快適な住空間に関する内容を取り上げ、小中高で系統性をもたせながらも新しく学ぶところは、基礎・基本が定着するように題材や指導方法を工夫した。具体的には、小学校では、身の回りの清掃や整理・整とんを通して、気持ちよい住まい方について関心をもって、自分なりに工夫して清掃や整理・整とんができるようにするために、共通課題とした体験的な学習を取り入れた。実際に一人一人が家庭科室の清掃をするという実習計画を作成し、そこでの気づきや課題を各自が家庭でも実践できるような内容を取り入れた題材とした。中学校では住まい方について、更に「安全」という視点を強調したり、自分の知識を家庭生活全体に広げて生かしていくという視点を強調したりして取り扱うようにした。また、「住生活」については、具体的な体験を通して指導することが難しい学習内容であることを考慮し、そのために、VTRなどを活用し、視覚的に印象づけるような展開を取り入れた。高等学校では、小・中学校での学習を発展させ、社会に出て生活を創造する立場になる自覚を高めるため、広く社会との関連を図るという視点を強調し、自分の家族の安全だけでなく、更に地域の中で担う役割についても考えさせる場を取り入れ、住生活の管理ができるよう、具体的な資料やグループ協議などの学習活動を通して実践的に学習できるを取り上げた題材とした。

小学校 学習指導要領

- (6) 住まい方に関心をもって、身の回りを快適に整えることができるようにする。
- ア 整理・整とんや清掃を工夫すること。
 - イ 身の回りを快適に整えるための手立てや工夫を調べ、気持ちよい住まい方を考えること。

中学校 学習指導要領

A 生活の自立と衣食住

- (4) 室内環境の整備と住まい方について、次の事項を指導する。
- ア 家族が住まう空間としての住居の機能を知ること。
 - イ 安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫ができること。

高等学校 学習指導要領

家庭総合

(4) 生活の科学と文化

衣食住の生活を科学的に理解させるとともに、衣食住に関する先人の知恵や文化を考えさせ、充実した衣食住の生活を営むことができるようにする。

ウ 住生活の科学と文化

住生活の機能、住空間の計画、住環境の整備などについて科学的に理解させるとともに、住生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した住生活を営むことができるようにする。